

第7回農業資材審議会種苗分科会 議事要旨

1 開催日時及び開催場所

日 時：平成20年2月6日(水) 15:00～17:00

場 所：農林水産省第1特別会議室

2 出席者（敬称略）

委 員：小池洋男、土肥一史、野原宏、桃木芳枝

（欠席：小竹寿子、篠原温、前嶋恒夫）

専門委員：神田美知枝、北宜裕、鬼頭鈞、近藤聡、谷本恵美子、西田宏太郎、畠山好雄、

宮崎潔、宮田増男、山岸順子

（欠席：佐藤光、増野和彦、八尋和子）

3 会議の概要

- (1) 農林水産省告示（種苗法の規定に基づき重要な形質を定める件）の一部改正について、事務局より昨年の答申を踏まえた告示改正が報告された。
- (2) 種苗法（平成10年法律第83号）第2条第7項の規定に基づき、「61種類の農林水産植物についての重要な形質をUPOVのテストガイドラインに則して見直し、残りの植物については今回は従来どおりの内容とし、今後順次見直していくこと」について諮問が行われ、そのとおりの内容とすることが適当であると答申された。
- (3) 昨年の種苗法の一部改正について、事務局が概要を報告した。
- (4) 東アジア植物品種保護フォーラムの設置について、事務局が概要を報告した。
- (5) 独立行政法人整理合理化計画（平成19年12月24日閣議決定）及び独立行政法人種苗管理センターの事務及び事業の見直しについて、同センター理事長が説明した。

4 委員からの主な意見等

○従来は全般に調査項目が多く出願時に負担であったので、全般に項目が整理されているものと評価する。

○日本国内の主要な病害抵抗性（野菜の根腐れ病など）、農業上の形質（飼料作物の耐倒伏性、耐寒性など）、育種が進められている形質（花の色、開花時期など）、消費者が喜ぶ特性（味や舌触りなど）の追加を、今後必要に応じ検討してはどうか。

○出願時の提出種子数について、出願者の負担にならないよう必要に応じ減らすなど、別途検討してはどうか。

○標準品種の記載されていない審査基準案については、日本に即した品種を中心に出来る限り早く記載してほしい。